インテリアデザイン実習3年

学校番号	3010

令和5年度　工業（インテリアデザイン）　科

教科	工業	科目	インテリアデザイン実習	単位数	3 単位	年次	3 年次
使用教科書	自主編成教材						
副教材等	なし						

1担当者からのメッセージ（学習方法等）

工業のインテリアデザイン分野に関わるものづくりを中心に、インテリアエレメントの分類（家具、建具、照明器具、窓回り部品、テキスタイル製品、壁装材料、工芸品）を取り上げ、木材やガラス、テキスタイル等の素材を用い、家具類の制作を通して実際の作業に即して総合的に関連付けて理解するとともに、実際のものづくりの現場で活用することができる技術の応用力を身に付けるように学習します。

履修条件
なし

2学習の到達目標

ものづくりを安全で安心な工業製品を提供する視点で捉え、実際の作業に即した実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業のインテリアデザイン分野に関する知識と技術を総合的に習得し、地域や社会の健全で持続的な発展を担うことができるようにする。

3学習評価 評価 規準 と評価方法

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	工業のインテリアデザイン分野に関する技術の向上をめざして自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	工業のインテリアに関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する力を養う。	工業のインテリアデザイン分野に関する技術を実際の作業に即して身に付ける	工業のインテリアデザイン分野に関する技術を実際の作業に即して構造、名称、形式、設置方法、施工方法などを総合的に、理解する。
評価方法	・学習状況の観察 ・実習ノートの記述 ・作品 ・レポート ・発表 ・自己評価・相互評価等	・学習状況の観察 ・実習ノートの記述 ・作品 ・レポート ・発表 ・自己評価・相互評価等	・学習状況の観察 ・実習ノートの記述 ・作品 ・レポート ・発表 ・自己評価・相互評価等	・学習状況の観察 ・実習ノートの記述 ・作品 ・レポート ・発表 ・自己評価・相互評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	研究計画	・木材と木質材料の特性を取り上げ、手工具による切削加工、組立、接着、塗装の理解を深める。 ・家具デザイン考察 ・アイデアスケッチ ・木取り図作成 ・模型制作 ・工具の扱い方と工程 ・木材の加工法を学ぶ	〇	〇	〇	〇	a：グループワークを中心に問題解決に向けて協働的に取り組む。 b：デザインワークを通しコンセプトに合わせた構想を練り、創意工夫する。 c：工業製品や、教具、空間デザインなどの調査をする。 d：工業製品や、教具、空間デザインなどの理解を深める。	学習状況の観察 実習ノートの記述 作品 レポート 発表 自己評価 相互評価 等
2	研究制作	・作品制作 ・切削加工 ・研磨加工 ・組立加工 ・仕上げ加工 ・CAD（三面図）	〇	〇	〇	〇	a：グループワークを中心に問題解決に向けて協働的に取り組む。 b：作品制作において独創的に解決策を探究し創造的に思考、判断、表現している。 c：必要な加工技術を適切に使用して制作している。 d：制作過程を理解し、工程計画を立てている。	学習状況の観察 実習ノートの記述 作品 レポート 発表 自己評価 相互評価 等
3	研究発表	・仕上げ加工 ・CAD（三面図） ・プレゼンテーション ・発表	〇	〇	〇	〇	a：主体的かつ協働的に取り組むことができる。 b：三面図やプレゼンテーションでは作品のコンセプトを明確に表現することができている。 c：必要な加工技術を適切に使用し制作している。 d：制作過程を理解し、工程計画を立てている。	学習状況の観察 実習ノートの記述 作品 レポート 発表 自己評価 相互評価 等

※　表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c:技能　　d: 知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。